第9回

地域のたから自慢の逸品

「仙台白菜」

●仙台市博物館　市史編さん室嘱託　菅原 友子

震災と仙台白菜

東日本大震災後、津波被害を受けた宮城県沿岸地域の農地の復興として、塩害に強い仙台白菜の栽培を勧めるプロジェクトが、JA全農みやぎ・明成高等学校・宮城県農業高等学校の連携で進行中です。この取り組みは、県内はもとより全国から注目を集めています。

さて、震災と仙台白菜には、不思議と縁があるようです。明治時代に中国から日本に種が持ち込まれた白菜は、大正末期に宮城県内で採種・栽培に成功し、昭和初期には「仙台白菜」の名で全国の市場を席巻しますが、その全国進出の扉を開いたのが、関東大震災だったのです。

大正一二（一九二三）年に起きた関東大震災。その後、被災した首都圏の人びとを襲った食糧不足を打開するため、帝国農会は全国の農会から農産物を大々的に受け入れることを決定します。これに応じ、宮城県農会は米や馬鈴薯と並んで、その年に大豊作だった白菜を東京へ送りました。それまで、白菜が県外へ出荷されたことはありません。白菜などの蔬菜は傷みやすく長距離輸送には向かないため、東京で流通する蔬菜のほとんどが都内や近県産だったからです。つまり、通常ならば東京市場に宮城県産白菜が割り込めない状況だったのを、関東大震災が一変させ、宮城県産白菜の旨さを東京の人びとに知らしめることになったのでした。

連携の勝利

県内初の白菜出荷に携わった名取郡中田村（現太白区）の農家が炭スゴ（俵）などで梱包した白菜は、蒸れや振動のため、東京に着いた時にはやはり傷みが目立ちました。翌年、宮城県農会は白菜農家に出荷組合を組織させ、全国の大都市市場に向けての出荷を目指すのですが、どんなに味が良くとも、このままでは大都市市場での厳しい競争に勝てません。

そこで協力を申し出たのが、仙台鉄道管理局です。昭和二（一九二七）年、バナナ輸送用だった通風貨車を白菜輸送用に三〇両用意し、さらには長町駅から三日で大阪市場に到着させる速達輸送を開始。その二年後には通風貨車を一〇五両まで増やし、白菜出荷の拠点であった岩沼・長町・岩切・瀬峰の各駅に常備しました。また、農会と出荷組合は梱包の工夫に乗り出し、昭和一〇年以降は隙間を空けて板を組んだ通気性の良いスカシ箱が主流となります。

長距離輸送における最大の懸案を克服する一方、当時としては画期的な販売キャンペーンも展開されました。ポスター・パンフレット・宣伝文つきのマッチや手ぬぐいを消費地に配るほか、白菜のフランス料理講習会や京都の高級料亭での試食会を開催し、宮城県産白菜のイメージを一躍高めます。

こうして宮城県農会・白菜農家・鉄道の連携が功を奏し、宮城県産白菜は全国の市場で争奪戦が起きる「仙台白菜」というブランドを確立したのです。

プライドと責任

当時の名取郡玉浦村（現岩沼市）出荷組合の白菜出荷票には、「表記の目方と違うものや結球が不完全なもの、そのほか不正品が混入していた際は、組合に報せて下さい」との注意書きがあります。仙台白菜農家の矜持、そして責任を感じさせる一文です。

しかし戦後になると、大都市市場から「葉が固い」「傷みが多い」の声があがって仙台白菜のブランドイメージは急落し、出荷数も減少の一途をたどります。戦中の稲作中心主義で仙台白菜の採種管理がおざなりになり、品質が低下したため。輸送で傷むリスクが低い大都市近県で白菜栽培が盛んになったため。と、理由は様々あげられています。

昭和二〇年代の新聞に掲載された仙台白菜の出荷風景写真を見ると、梱包はスカシ箱ではなく、炭スゴに戻っていました。仙台白菜ブランドを作り上げ、維持してきた連携の破綻が、そこに象徴されている気がします。

仙台朝市で伝統野菜を取り扱う店に並ぶ仙台白菜。この店は震災前から仙台白菜（昭和初期の仙台白菜の主品種だった松島純二号）の復活に力を入れている。

仙台市史編さん事業展 あれ コレ? せんだい

▶『仙台市史』編さんの軌跡を一挙展示！◀

●ミニ市史講座【無料・聴講自由】講座内容は博物館HPをご覧ください。
12/22、12/24～26、1/6～7（12:20～12:50、14:00～14:30）
※1/7は「こども市史講座」を開催（11:00～12:00、13:30-14:30）
●仙台の伝統的門松レプリカ展示
●市史編さん事業紹介パネル等展示、歴代市史ポスター展示 ほか

●12月18日(木)13:00～平成27年1月8日(木)12:00
●仙台市役所1階ギャラリーホール　●入場無料
※12/23、12/27～1/4は閉庁日のためお休みです

ここはどこ?

仙台市史編さん事業の歴史とともにむかしの仙台の写真も多数展示します。（写真は、仙台市役所の新旧庁舎）

第30回　仙台市史講座
住まいと町並みの仙台近代史
―明治・大正の建築遺産より―
講師：大沼　正寛 氏（東北工業大学准教授）
川后　のぞみ 氏（仙台市文化財課）
明治・大正期に仙台の中心部に建てられた近代建築から当時のまちの姿を探ります
日時：平成27年2月14日(土) 13:30-16:00
場所：青葉区中央市民センター
○入場無料　申込制（定員：100名）応募多数の場合は抽選
※聴講ご希望の方は、往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記し、仙台市博物館「第30回仙台市史講座」係まで。
※1名につき1通の往復はがきでお申込みください。
※申込期間：1/1(木)～1/31(土)　〆切当日消印有効

仙台市博物館は12月1日～2015年3月末（予定）の期間、館内改修工事等のため休館いたします。
※再開時期については、博物館ホームページ・市政だより等でお知らせいたします。
〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地（仙台城三の丸跡）
TEL:022-225-3074
http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/
仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM